

短 報

群馬県におけるハクビシンの分布状況

榎澤 誠

群馬県立自然史博物館教育普及課

キーワード：ハクビシン，群馬県，分布

Key words : Masked palm civet, *Paguma larvata*, Gunma Prefecture, Distribution

はじめに

ハクビシン *Paguma larvata* はアジア大陸の四川省以南の中国，ベトナム，タイ，インドネシアと台湾，アンダマン諸島，スマトラ，カリマンタン島に分布する食肉目ジャコウネコ科の動物である。夜行性で長い尾を上手にを使って樹上で生活するが，果実の他，ミミズ，昆虫，あるいはネズミやカエルなども食べ，その食性は非常に広い（増井，1976；鳥居，1992；中村，1993）。ハクビシン（白鼻芯）という名前は，黒い顔の正中線にはっきりと白い線が走ることに由来している。

ハクビシンが日本で初めて確認された年代および地域については，1943年の静岡県とする説から1950年の山梨県とする説まで様々である（朝日，1977；今泉，1977；小山，1982；鳥居，1992）。戦前に飼育されていたものが逃げて野生化したものといわれるが，明治時代から捕獲されていたとの説もあり真相は不明である（今泉，1960；阿部ほか，1994）。いずれにしても1951年以降各地で生息が確認され，現在では，青森県と岩手県を除いた福井県以北の本州東半

分と四国4県で確認されている（鳥居，1996）。

群馬県については，小山（1982）によって初めて水上町での生息が報告され，県内での生息地はこの1ヶ所だけと考えられていた（布施・夏目，1983）。その後，宮崎（1987），武（1990），小林（1992）により他の地域についても報告されている（図1）。

本稿では，群馬県立自然史博物館とその前身である群馬県立自然科学資料館に持ち込まれて収蔵されている標本と，地元の新報に掲載された発見記録等により，群馬県内における本種の分布を補足する。

調査方法

1. 収蔵標本について

群馬県立自然史博物館は1998年10月に開館した博物館である。それ以前には群馬県立自然科学資料館があったが，自然史博物館の開館にあわせて1998年3月末をもって閉館した。この両館および自然史博物館開館前の建設準備室には県内各地で拾われた，哺乳類や鳥類の死体が持ち込まれ，標本として活用されている。

これらの標本のうち哺乳類はタヌキ，キツネ，アナグマ，ハクビシンがほとんどである。なかでもハクビシンは1990年以降12個体に及び，最も個体数の多い種類である。1995年以前の標本については，受け入れ時の計測データがなかったため，剥製，骨格標本，冷凍標本から頭胴長，尾長をそれぞれ測定した。また，冷凍標本以外は雌雄の判別を控えた。

2. 目撃または捕獲記録について

1987年4月から1997年12月までの間に，地元紙である上毛新聞の紙上で，ハクビシン発見の記録が4件報道された。ただし，このうちの1件はすでに武（1990）によって報告されているため，新たな発見記録のなかからは除外した。

1997年5月に上野村役場で保護された個体は，その後近くの民家で飼育され，体力が回復した後解放された。図1の写真は，解放された直後のこの個体である。



図1 ハクビシン（亀井健一氏撮影）

表1 群馬県立自然史博物館に収蔵しているハクビシン標本

図2の ポイント 番号	収蔵番号	性別	頭胴長 (cm)	体長 (cm)	体重 (kg)	発見年月日	発見場所	収蔵状態
1	VM14	不明	42*	35*	測定不能	1990年4月25日	下仁田町国道254号線内山峠付近	剥製
2	VM13	不明	57*	33*	測定不能	1992年11月2日	榛名町大字十字字	剥製
3	VM178	不明	41*	32*	測定不能	1993年3月13日	勢多郡東村	剥製
4	VM179	不明	37*	32*	測定不能	1993年4月27日	沼田市戸鹿野町	剥製
5	VM180	不明	48*	42*	測定不能	1993年5月24日	高山村大字尻高	剥製
6	VM109 VM110	♂	55*	41*	測定不能	1994年10月26日	吾妻町大字郷原字唐沢の国道145号線	骨格 毛皮
7	VM181 VM182	♂	49*	40*	測定不能	1995年4月9日	松井田町国道18号線碓氷パイパス碓氷峠付近	骨格 毛皮
8	VM183	♂	59	37	5.2	1996年2月16日	桐生市	冷凍
9	VM186	♀	46	35	2.8	1996年11月9日	渋川市行幸田	冷凍
10	VM187	♂	62	41	5.1	1997年2月13日	渋川市	冷凍
11	VM184	♂	51	36	3.3	1997年8月19日	富岡市黒川	冷凍
12	VM185	♀	52	41	3.8	1997年12月7日	高崎市寺尾町主要地方道高崎・吉井線高崎芸術短大入り口付近	冷凍

*剥製または骨格標本を計測

表2 群馬県内での新たな発見記録(1987~1997年)

図2の ポイント 番号	発見年月日	発見場所	発見時の状況	出典または 確認者
13	1987年10月20日	太田市下田島の水田	稲刈り中のコンバインに巻き込まれて傷つき保護された	上毛新聞
14	1996年5月上旬	子持山頂	山頂の石灯ろうの脇でうずくまっていたところを登山者が写真撮影した	上毛新聞
15	1997年5月16日	上野村役場	役場事務室内に迷い込んで衰弱し保護された	上毛新聞
16	1997年7月7日	高崎市寺尾町の路上	轢死体で発見された	樺澤 誠

また、1997年7月にたまたま筆者が高崎市で目撃した轢死体は、傷みがひどかったため、現場の様子を写真に撮影したのみで実物が保存されていないが、本種の特徴である額の白線や太く長い尾からハクビシンであることが明らかであるため発見記録に加えて、表2に示した。

結果および考察

群馬県立自然史博物館に収蔵された標本と目撃報告によって、群馬県内におけるハクビシンの生息が新たに16地点で確認された。この場所を過去に報告された地点に加えて図2に示した。

小山(1982)から小林(1992)までに群馬県内では10市町村で本種が確認されている。

新たに確認された16地点のうち、子持山頂(図中のポイント14)は沼田市、高山村、子持村、小野上村が接しているためこれらをすべて数えると、15市町村で確認されたことになる。この中には、すでに報告されている地域もあるため、全く新たに発見されたのは12市町村になる。これらを合わせると、群馬県内で本種が確認された地域は22市町村にのぼり、生息地は県内ほぼ全域に広がりつつあることを示唆している。

新たに生息が確認された地域の多くは子持山、榛名山、妙義山の周辺で、群馬県の中では中北部及び西部地域に集中している。このうち、ポイント12、16は高崎市に含まれるが、妙義山からのびる丘陵帯の東側の縁で、コナラを中心とした二次林が残る地域である。この北東側には住宅地や市街地がすぐ近くに迫っており、本種が市街地のすぐそ



図2 群馬県におけるハクビシンの分布

○ 過去に報告された地点 ● 新たに発見された地点

ばにまで生息地を広げていることを示している。一方、ポイント13は利根川に近い、太田市内の水田地帯で、稲刈りのコンバインに巻き込まれて傷つき、保護されたものである。周辺には広い森林は見られない。太田市の北側にあたる桐生市、大間々町、勢多郡東村では本種の生息が確認されており、桐生市から太田市へのびる丘陵帯を通して生息地が広がっているとも考えられるが、ポイント13とは直線距離で約5 km離れており、その間には水田や住宅地があるため、この丘陵地に生息している個体とは考えにくい。むしろ比較的近い利根川の河川敷に生息していることも予想され、行動範囲や生息場所をさぐるうえで興味深い事例である。

謝 辞

木内武雄氏、須藤舊國氏（吾妻林業事務所）、小林敏夫氏（群馬県立尾瀬高等学校）、小林正氏（群馬県立吾妻高等学校）、小山宏氏（北群馬渋川郷土館）、檜崎修一郎氏（群馬県立自然史博物館）、高乗祐司氏（群馬県立自然史博物館）には標本の収集に御協力いただいた。また、亀井

健一氏（元群馬県立前橋南高等学校長）、武 倫夫氏（群馬県立館林女子高等学校）、斎藤雅夫氏（上毛新聞社）、小久保博志氏（群馬県立自然史博物館）には資料の提供あるいは御指導をいただいた。特に、亀井氏には、貴重なハクビシンの生態写真を提供していただき、本稿への使用について御快諾いただいた。お世話になった各氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 阿部 永・石井信夫・金子之史・前田喜四郎・三浦慎悟・米田政明
1994 「日本の哺乳類」, 東海大学出版会, 195 p. 東京.
- 朝日 稔
1977 「日本の哺乳動物」, 玉川大学出版部, 236 p. 東京.
- 布施英明・夏目道生
1983 ほ乳類, 群馬の野生動物, 上毛新聞社, 78.
- 今泉吉典
1960 「原色日本哺乳類図鑑」, 保育社, 196 p. 大阪.
- 1977 ハクビシン, アニマ, 平凡社, 54: 48-55.
- 小林 正
1985 群馬県の哺乳類, 群馬県動物誌, 群馬県高等学校教育研究会生物部会, 49-104.

- 1992 哺乳類, 長野原町の自然, ハツ場ダム地域自然調査会, 222-223.
- 小池正之
- 1995 哺乳類, 大間々町誌 別巻5 動物編, 大間々町誌編さん室, 14-15.
- 小山 宏
- 1982 群馬県下のハクビシンについて, 鳥獣行政, 17(3), 9-18.
- 増井光子
- 1976 「日本の動物—哺乳類—」, 自然観察と生態シリーズ 10, 小学館, 176 p.
- 宮崎重雄
- 1987 大・中形哺乳類, 桐生市動物誌〔桐生市地誌第2集〕, 桐生市教育委員会, 13-14.
- 中村一恵
- 1993 都市に繁栄する帰化動物, 動物たちの地球, 朝日新聞社, 13: 300.
- 武 倫夫
- 1990 ハクビシン, 群馬県の貴重な自然—動物編—, 群馬県林務部, 56-57.
- 鳥居春己
- 1992 在来種か導入種か, 動物たちの地球, 朝日新聞社, 19: 42-45.
- 1996 ハクビシン, 日本動物大百科, 平凡社, 2: 136-137.

Abstract

Distribution of masked palm civet (*Paguma larvata*) in Gunma Prefecture

Makoto KABASAWA

Department of Education, Gunma Museum of Natural History

I have described a distribution map of masked palm civet (*Paguma larvata*) in Gunma Prefecture from specimens keeping at Gunma Museum of Natural

History and witness or capture records. This is newly confirmed in twelve municipalities.

樺澤 誠

群馬県立自然史博物館教育普及課: 〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1

Makoto KABASAWA

Department of Education, Gunma Museum of Natural History: 1674-1, Kamikuroiwa, Tomioka, Gunma, 370-2345, Japan.